



2015年6月町田子ども劇場で趙寿玉チュムパンの公演がありました。町田子ども劇場というのは、町田で36年間活動している親子のための芸術鑑賞団体で、その他には、夏休み親子キャンプなども行っています。公演についての感想を事務局長の滝和子様にとめて頂きました。

6月14日(日)和光大学ポブリホール鶴川にて、町田子ども劇場の例会として『趙寿玉 魂の舞舞とソリ』を観させて頂きました。前回の例会に来ていただいたのは2005年。今回初めて韓国民俗舞踊に触れた会員が多い中、静の踊り、動の踊り、お話と、バラエティに富んだ内容で、大人も子どもも韓国の文化にふれる貴重な体験をさせて頂きました。当日はもちろん準備の段階から本場にありがとうございまして。公演後の会員の声を紹介させていただきます。

・これまで持っていた韓国民俗舞踊のイメージは『扇の舞』でした。

幻想的な踊りあり神々しい踊りあり賑やかな踊りもありバラエティに富んでいることをこの舞台を観て初めて知りました。衣装や音楽が日本の踊りとも西洋の踊りとも違う新鮮さを感じました。

・踊りながらくるつとまわったとき、一番上側の衣装がふわつと持ち上がり色とりどりの裾が見える、隠れた美しさが印象的でした。色使いがどれも鮮やかですね。子どもは「きれい」と見入っていました。事前に聞いていた、衣装をふわつとさせるために丁寧にアイロンをかける意味がわかりました。例会前後でお会いしたみなさんは明るく素敵な方ばかりでした。

・曲のリズム感が自分の中になくて初めて感じる感覚だったので、とてもビックリしながら聞きました。衣装の色や作りが美しくキレイ、さらに動きが加わることで美しさが増しました。足元や表情がよくみえる、近くで観ることができて良かったです。

・韓国の楽器の生演奏を聞く機会はないので貴重な体験でした。特に日本の琴とは違うコムンゴやカヤグムの響きが良かったです。

・親子ともに初めての韓国民俗舞踊でした。踊りの間に話していただいたリズムのお話は興味深かったです。その場では内容を全て理解できませんでしたが、踊りや演奏に触れながらもつと分かりたいという思いが湧いてきました。生

演奏での踊りは互いに呼吸をはかりながら合わせようとする真剣さがひしひしと伝わってきて、子どもにもそれが伝わっていたよう集中して観ていました。

・2005年に観て以来なのでこの日をとっても楽しみにしていました。お話されていた「結ぶと解く」意識は、今自分がやっていることの中で意識していることと繋がりが共感できました。

韓国民俗舞踊

『舞とソリ』を観て



・初めて触れました。海を隔ててすぐお隣の国で、似ているところもたくさんあるけれど微妙に違うところが面白かったです。賑やかな曲で子どもは体でリズムをとりながら観ていました。

・寿玉さんの手と肩の動きに目が釘付けになりました。指先のほんの少しの動きまで神経が張り巡らされ、その先にある空気にまでそれが伝わっているようでした。

・舞台を動きまわるときのスムーズな動きにびっくりしました。まるで水の上を滑っているようでした。二部では、演奏者が息をかわせようと寿玉さんの一挙一動に集中し、寿玉さんもそれを感じ、お互いが高めあっている感じが観ている私にも伝わってきました。今まで韓国民俗舞踊は扇の舞のような華やかな踊りのイメージだったので、サルプリ舞などはよい意味で意外でした。

・前回は市民ホールで客席と舞台が遠かったのですが、今回は足元や表情がよく見えてとてもよかったです。一曲目の五方舞から寿玉さんの繊細な手や肩の動きに目が吸い寄せられました。

・サルプリ舞では空気が一変して、女性の悲しみのようなものが感じられました。踊りによつて空気感がまったく変わるのでですね。「ここまで1500年60代分かかりました」というお話が印象に残っています。文化があることで人々の心が豊かになる意味をもっと考えたいです。

・帰宅後子どもたちは、踊りの中に見られた滑るような動きやしゃがんだり立ったりする動きをまねていました。体力も筋力もある中学生でしたがギクシヤクしてしまいました。寿玉さんはじめ皆様の動きとは程遠いものでした。何気なく見える動きの裏にある大変さが自分でやってみてほんの少しわかったようです。滑らかな動きを会得するためにはどれだけの時間と努力

が必要なのかと想像しました。
 ・家族が韓国籍の人と結婚したので、「こういう文化のもとに育ったのか」と彼女の生きてきた背景を思いながら観ました。今までよりも彼女が身近に感じられました。

・『男はつらいよ』第48作で、阪神神戸の震災後の街で輪になって踊るシーンがあります。今までも韓国のことは学んできたつもりでしたが、映画の中で踊りの意味が、例会での踊りやお話から腑に落ちました。

・古典を観慣れることは大人も子どもも時間がかかると思います。子どもは言葉に言い表すのが難しいのでしよう。感想をあまり言いませんでした。でも心の中に目には見えない何かが残っているように思えました。韓国のことにふれたとき腑に落ちる時期がくるのではないかと思います。

・踊りの足や肩の動きは素晴らしい、話は子どもには難しい部分もありましたがとてもよかったです。日本と韓国は長い期間に渡って交流があったことを思いだし、お互いに文化を認めあう大切さを考えさせられました。韓国でも今民俗舞踊の置かれている状況が厳しいところは、日本も同じだと思います。文化を繋げることの大事さを考えるきっかけをいただきました。



【町田子ども劇場主催】趙寿玉 魂の舞『舞とソリ』に出演して

福田 正枝

「プチェ舞(チュム)」、「鶴舞(ハクチュム)」そして、「フイナール」で「小鼓舞(ソゴチュム)」に参加させていただきました。先生から出演の話をいただき、その後、何度となく先生から舞台に関するお話を伺う中で、これは、おさらい会でも発表会でもない、先生の大切な舞台であり、甘い考えで参加することは許されないと強く意識させられました。中でも、今回の舞台は、子供たちに本物の芸術を見せる会であり、舞台に立つときは初級も中級もない、本物の芸術を見せるという意気込みで臨まなければならぬとおっしゃったことは強く印象に残りました。

本格的に練習を開始したのは3月半ばごろだったと思います。本番までは約3ヶ月しかありません。みんな忙しい中でのスケジュール調整となり、特に最初のころは、全員が集まって練習するということが難しく、練習が思うように進まないということも多々ありました。群舞は全員の呼吸、チームワークが大切です。群舞ならではの細かい決め事、何回転するか、どのタイミングで手を上げて下すのかなどは、先生から、自分たちで決めるように言われ、決めればずなのに、先生に見てもらおうとバラバラ。結局、先生に決めてもらわなくてはいならないという不甲斐な

さで自分にイライラ、焦りは募る一方でした。また、どうにも全員の呼吸が合わず、皆でドトルで話し合ったこともありましたが、でも、それもすべて大切なプロセスの一つだと思います。そうやって、悩み、考え、そして、最後には「先生の舞台を最高のものになりたい」という思いに至ります。とにかく

一生懸命やろうと自分を奮い立たせて本番に臨みました。あんなに練習をして、身支度にも時間を掛けるのに、あつという間の本番はいつも拍子抜けしてしまってくるスピードで流れていきました。そして、踊り終わった瞬間から頭の中でダメ出しが始まります。出るのはため息ばかり。



今回、舞台に出演して強く感じたことは、観客の方に踊りを「みせる」ことの難しさでした。40歳半ばで韓国舞踊を初め、まだ数年習っただけの普通のおばさんです。大半は鏡の前で踊っているだけであるにも関わらず、先生の舞台に出させていただき、お金を払って来てくださるお客さんの前で踊ることがいかに難しいことか、人を魅了するものは何なのだろうだろうか。先生が舞台で見せる集中力と爆発的なエネルギーはどこからくるのだろうか。そんなことを改めて考えました。しかし、悲しいもので、どれだけ考えても答えはわかりません。そもそも、そんなものが自分の中にあるかどうか疑問であり、



自分を持ち出して考えていること自体がおこがましく感じ、考えれば考えるほど頭がぐるぐるしてしまいました。今回の経験により、今後は、これまでとは、また違った視点から先生や先輩方の舞台を見て学ぶことができるのではないだろうかと思っています。

趙寿玉先生はじめ、共に踊った仲間や応援してくれた仲間、先輩方、舞台に関わったすべてのみなさまに感謝をこめて。

(ふくだ・まさえ：初級、土曜、木曜クラス)

「済州島3泊4日」つれづれの旅

宮崎 節子

6月初旬、友人4人と済州島を旅行しました。当時はMERUSという感染ウイルスが韓国内で猛威を奮い、感染拡大のニュースが日本にも伝わっていました。しかしながら私達の間では旅行中止の話も出ず、ネットで3泊4日の旅費・ホテル込みの格安料金チケットをゲットしました。

成田でのMERUSチェックもなく2時間30分であったという間に済州国際空港に到着。韓国本土から南に90km離れた韓国最大の島が済州島で、日本の高知や和歌山と同じ緯度に位置し温暖な気候で「韓国のハワイ」と呼ばれ中央に最高峰の漢拏山（ハルラサン）を有する火山島で島全体が楕円形をしている。（地球の歩き方参照）



ロペラの羽を廻している姿でした。海は潮の香がせず珊瑚礁の白砂でどこまでも透き通つてのマリンブルー。

ホテルに荷物を置いてすぐ済州島市民の台所を支える東門市場に行きショッピング。エゴマ油を絞るいい匂いが市場の中道に立ち込め、韓国なんだと実感。魚屋は太刀魚、鯖、金目、ヒラメ、トコブシが並び奥で刺身にして食べさせてくれる。果物店には紙コップに山盛りの桑の実が売られ、初めて食べたが甘酸っぱくて最高。試食し過ぎにおばちゃんに怒られ（ゴメンナサイ）買いました。それでもコップ山盛りで2千ウォン（2百40円）安いです。百分のハルラボンジュースも完熟で最高でした。

道すがら市街地に大きな布で覆ったドーム状の建物が目に入りタクシートの運転手さんに聞くと、ヒラメの養殖場で、日本の回転寿司の材料との事でした。ヒラメの縁側のおいしいのはここから来てるんですね。翌日海鮮刺身に鍋（ヘムルトウツベギ）を。新鮮で味が濃く少し青唐辛子が効いてピリツとして美味しかったです。ちなみに日本からワサビと醤油を持って来た食通が「やはりこのほうが美味しい」とか云って4人で騒いでいたら、店の人も味見したいと。



「旨い、これはダシ醤油か」と聞いて来たので「日本のキッコーマンカンジャンだ」と食通の友人は言い張っていました。

済州島は、古くは独立国・耽羅（タムナ）を名乗り、島は独自の歴史・文化・風俗を培って来ました。三姓穴（サムソンヒョル）は済州島の建国神話ゆかりの地でこの穴から三神人があらわれ三姉妹と結婚して農耕を始め子孫を増やし、高・梁・夫の3つの名字の末裔が済州島には今も多く、大祭も執り行われています。また運転手さんの話ですが、昔から温暖な気候の為大陸モンゴルから馬をこちらに運び込み放牧し繁殖させていたそうです。そしてその馬たちは在来種のチョランマルと呼ばれるようになり再び大陸・朝鮮本土に運ばれて行ったそうです。チョランマルは小型の馬で私もこの

チョランマルに乗りました。1回5千ウォンで観光用に飼い馴らされて大人しく、潮風を受けての抜群の景観での乗馬は最高でした。おじちゃんに私に馬の手綱を持たせてくれたので、馬の腹を足で軽く蹴ると、パカパカと小走りになり馬との一体感を楽しみました。また乗りたい。

またまた目についたのは畑と畑の境に高さ30cm〜50cmの低い塀がたくさんあり、その塀は沖繩の石垣とも違い、岩の間が隙間だらけで頼りなく積み上げた感じなんです。運転手さんに聞くと、「野積み」と云って玄武岩の火山礫を積み上げた簡単なもので、畑に蒔いた種が潮風に飛ばされないための風よけの塀だそうです。火山岩のギザギザがお互いをしつかり結びつけ、岩の隙間からはうまい具合に風をやり過ごしと、生活の知恵なんです。私達もタクシーから降りて岩を積んで「野積み」をしました。岩を重ねただけで全然崩れなかつたです。今も海岸から岩を持ち帰り積み上げるそうです。

済州島の歴史でよく聞く事件で「済州島四・三事件」があります。1948年在朝鮮アメリカ陸軍司令部支配下にあった南朝鮮（現在の韓国）は朝鮮半島分断に反対して蜂起した済州島島民数万人を無差別に虐殺しました。独立で

祖国に戻った朝鮮人は、命からがらまた祖国を離れ日本に来て生活する人達もたくさんいたそうです。この景勝地と裏腹に繰り返された悲劇は沖繩の歴史とも相通じるものを感じました。

旅も残すところ後一日、タブトンの風呂屋に行き、垢擦り、ヨモギ蒸しと経絡リンパマッサージで人生の疲れを取りました。その時は少々痛いけど翌日は嘘のように体が軽く韓国では6万ウォン（7千円）程、日本なら1万2千円にはなるかなあ。全員大満足で翌朝はアワビのお粥のおいしい店へ、2万ウォン（2千4百円）でした。最後に運転手さんお薦めの「ザ・馬パーク」でドラマ「朱蒙（チュモン）」の戦闘シーンを観覧。40匹の馬と若者達の競演、本土の修学旅行の高校生たちはカッコいいお兄さん達の曲芸にキヤーカー大騒ぎ。私達は健気に演技した馬たちに拍手喝采をし、公演が終わって観客席に並ぶ馬たちに割り箸に刺した人参を一本（千ウォン）づつ差し入れをして労をねぎらいました。ちなみに彼らはモンゴルの雑技団で人馬一体の旅公演でした。帰りは偏西風の追い風に乗り1時間40分で成田空港に着きました。大満足の旅・カムサハムニダ。（みやざき・せつこ：中級クラス）

韓国舞踊に魅せられて!

柳原 里香

趙寿玉先生のところに来て、間もなく4年になります。この4年間を振り返ると本当に山あり谷ありの連続で平坦な道などなかったように思います。先生の下で習えば習う程、本当に奥が深く迷宮に入っていく感じがします。

昨年は、私にとっては3回目のおさらい会でした。そこで先生に「やつと韓国舞踊を教える門の入り口に来たね」と言われました。それまでの道のりも自分なりには大変だと思っていたので、その言葉聞いたときに、「えっ? まだ入り口なんだ?」と複雑な気分になりました。しかし習っている、ソンスルプリや散調(サンジヨ)、シナウイを通して感じる事です、今までの私は振りを感じれば、

ほぼ完成した気分になっていました。

最近では振りを覚えたら、次はどう表現したらいいのか、私はどう踊りたいのかと考えるようになりました。そして先生の踊っている姿を食い入るようにみて、綺麗だなと思うだけではなく、踊りに籠められた思いとか、表現を考えてみたり、先輩とのお稽古を通して、深みのある踊りはどうしたらできるのか、と思うようになってきたと感じます。これがきつと先生の仰る、韓国舞踊の入り口に來たことなのかもしれないと納得したことです。

正直、辛いことが多く、お稽古の帰りに、自分の不甲斐なさに、涙を流す事も度々あります。どうして体が動かないのだろうか、もつと呼吸を深くして踊りたいのにと、身悶えすることもしばしばです。こんな風に書くと、きつとそんなに苦しかったら辞めればいいのにと思いますよね。だけど苦しみながらも次の工夫が見え、今度はこの風に乗ってみようとか、こうすればうまく行くに違いないとかと、直ぐに考えてしまいます。そして気がつく、エア舞をしながら通勤しているのです。寝ても覚めても踊りが心から離れません。苦しいけれど嬉しい状態です。

ただ、何分不器用で直情的な私は、時にはその直情的な性格ゆえに、怒りを隠せず、プイツとお稽古場を後にして仲間に心配をかけたことも多々あるようです。そんな私を見守ってくれる仲間や先輩、そして先生に支えられて今日まで来る事ができたと思っています。この頃はそんな日々をの幸せを



うして体が動かないのだろうか、もつと呼吸を深くして踊りたいのにと、身悶えすることもしばしばです。こんな風に書くと、きつとそんなに苦しかったら辞めればいいのにと思いますよね。だけど苦しみながらも次の工夫が見え、今度はこの風に乗ってみようとか、こうすればうまく行くに違いないとかと、直ぐに考えてしまいます。そして気がつく、エア舞をしながら通勤しているのです。寝ても覚めても踊りが心から離れません。苦しいけれど嬉しい状態です。



噛み締めながら、入り口から一歩でも先に進めればと願っています。

(やなぎはら・りか:初級クラス)



活動報告

◎2015年6月14日(日) 15:00開演
町田子ども劇場6月例会 韓国民俗舞踊舞とソリ公演
東京・町田 和光大学ポプリホール鶴川

◎2015年7月18~20日(土~月)
金星先生 プクチュムワークショップ
東京・新宿区 地域センター
主催:趙寿玉チュムパンの会

◎2015年8月7~9日(金~日)
金美善先生のミンサルプリワークショップに参加
韓国・扶安

活動予定

◎2015年8月22日(土) 14:00開演
東京風流 韓国伝統音楽公演「打縁琴」出演
東京・日暮里 ARTCAFE百舌

